首都圏、大みそかの終夜運転縮小 JR東や東京メトロ

#地域総合 #東京 #千葉

2022/12/26 5:00 [有料会員限定]

首都圏で大みそかの終夜運転を実施するのはJR東日本や京王電鉄、京成電鉄などごく一部にとどまった

首都圏の鉄道会社で大みそかの終夜運転を取りやめる動きが広がっている。2021年は実施した東京地下鉄（東京メトロ）が見送り、JR東日本も7路線と21年から2路線絞る。足元では新型コロナウイルスの感染拡大「第8波」の影響もあり年越しイベントの復活も一部にとどまっている。終夜運転が見送られた地域では落胆の声が漏れる。

終夜運転はコロナの流行を機に一気に縮小した。20年の大みそかは自治体からの要請もあり、全社が終夜運転を見送った。21年は行動制限が発令されておらず一部で終夜運転が復活したものの、ゆりかもめや京浜急行電鉄で利用が見込めないとして実施を見送った。

22年の大みそかも21年に続き行動制限は発令されない見通しだが、各社が終夜運転を復活させる動きは見えず、むしろ縮小傾向が加速している。

東京メトロは21年に銀座線の上野―浅草間で終夜運転を実施したが、22年は実施を見送る。21年は浅草寺（東京・台東）に参拝客を輸送する目的で実施したが、22年は「年末年始全体の利用実績などを踏まえて決定した」（同社広報）という。

同じく21年に都営浅草線（浅草橋―押上）で終夜運転を実施した都営地下鉄も見送った。東京メトロと都営地下鉄は大みそかの終電時間を遅くしたり、元日の始発を早めたりせず、31日～23年1月3日は通常の土日ダイヤで運行する。

JR東日本は21年の大みそかに実施した宇都宮線、高崎線、湘南新宿ライン（大船―大宮）での終夜運転を見送る。沿線で年越しイベントが見送られたこともあり、「21年の利用実績も加味して決定した」（同社広報）。山手線や総武線、横須賀線など7路線では実施するが、運行間隔が最大で30分ほど長くなった。

一方、沿線に成田山新勝寺（千葉県成田市）のある京成電鉄や、高尾山（東京都八王子市）がある京王電鉄は21年とほぼ同じ規模で終夜運転を実施する。小田急電鉄は一部路線で元日早朝に初日の出に合わせた臨時便を運行する。

さらに、関西圏では終夜運転の復活がみられる。京阪電鉄は3年ぶりに終夜運転を復活させた。年越しイベントも広がっており、テーマパーク「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」（大阪市）は3年ぶりにパーク内で年越しできるイベントを復活させる。

首都圏で終夜運転が縮小した背景には、年明けの瞬間を迎える「カウントダウンイベント」の開催が少数にとどまったことが挙げられる。

コロナ禍まで毎年恒例となっていた東京都渋谷区のスクランブル交差点のカウントダウンイベントは3年連続で中止が決まった。イベントは渋谷区や地元商店街からなる実行委員会が主催しているが、「感染の収束が見込めず、共催する事業者が集まる見込みが立たなかった」（事務局を務める渋谷区土木課の担当者）。

目下の電力高騰も見送る要因の一つになっている。コロナ禍で鉄道各社の収益が打撃を受ける中、十分な利用が見込めないとあっては1日限りの終夜運転といえど、簡単には踏み切れない。3年連続で見送った京急の広報担当者は「利用者数と終夜運転にかかる動力費が見合うかということも判断基準だ」と話す。

大みそかは毎年参拝客でごった返す浅草寺だが、浅草駅に停車する全路線で終夜運転を見送る

終夜運転の見送りが決定した地域では落胆が広がる。コロナ前は250万人以上が初詣に訪れた浅草寺だが、22年は浅草駅に停車する東京メトロ、都営地下鉄、東武鉄道、つくばエクスプレスの全てが終夜運転を見送った。浅草観光連盟の冨士滋美会長は「深夜なので地域への影響は少ないが、参拝客が回復していただけに残念だ。（鉄道会社の）経営を考えると仕方ない」とこぼした。